

♪ 2020年度 *poco a poco* ♪

Nr. 13

2020年11月25日(水)

文責:プファイル・辰巳

Trauermonat November

(憂いの月~11月~)

Allerseelen (万霊節)、Volkstrauertag (戦没者
記念の日)、Totensonntag (死者の日曜日)、

Buß-und Betttag (ざんげと祈りの日)・・・ドイツでは、

11月は亡くなった方のことを思い出し、墓掃除と墓参を

済ませる月です。日本のお盆のようなものですね。この時期、花屋さんの店頭飾ら
れている日本の松飾のような大小さまざまな飾り物は、墓石を飾るためのものです。

こうしてお墓の掃除を終えたら、いよいよ Advent (待降節)、クリスマスの準備が本
格的に始まります。お母さん方はクッキーを焼いたり、プレゼントを用意したり、家の飾
りをクリスマス仕様に模様替えしたり・・・と大忙しになります。子どもたちには、アドヴ
ェンツカレンダーの窓を毎日一つずつ開けるのが楽しみな12月がやってきます。

今年はコロナの影響が大きく、クリスマスの楽しみも半減ですが、やはり健康が第
一です。家族そろって元気にクリスマスを迎え、年を越せるようにしたいものです。長
い2学期も残りわずかになってきました。みなさんお身体大切にしてくださいね。

音楽こぼれ話 <語源を探ろう② ア・カペラ >

ア・カペラ (a cappella) は、他の多くの音楽用語と同様にイタリア語です。カペラ
は英語で言えばチャペル (chapel)、つまり教会・礼拝堂を意味します。もともとは礼
拝堂内で演奏される音楽全般を指す言葉でした。

中世時代のカトリック教会で用いられていた典礼聖歌グレゴリアン・チャントは、ア
・カペラの起源とも言われています。単旋律・無伴奏で歌われる聖歌でした。

ルネサンス時代に入ると、この典礼聖歌がどんどん複雑で伴奏もついた豪華なも

のに発展していきました。音楽が複雑化しすぎて、最後には肝心の歌詞が聞き取れ
なくなってきたといえます。これを問題視したバチカンが教会音楽の簡素化に取り組
み、複数のパートで歌われたとしても簡素で歌詞が聞き取りやすいものになりまし
た。また無伴奏で歌唱されることが多く、伴奏をつける場合もごく簡単なものになり
ました。

19世紀に入ると、「ア・カペラ」の意味合いが変わってきます。ごく簡単な楽器伴
奏もすっかり無くなり、無伴奏で歌われる合唱だけが「ア・カペラ」と呼ばれるよう
になったのです。

20世紀に入ると、「ア・カペラ」音楽は典礼音楽の意味も失い、ポピュラー音楽の
世界でも無伴奏で歌われる音楽は「ア・カペラ」と呼ばれるようになりました。ア・カ
ペラ合唱団やア・カペラグループが登場し、グレゴリアン・チャントの響きを再生したり、
ジャズ風のア・カペラ音楽が演奏されたりするようになりました。

人間の声が重なり合う響きだけで作り上げる「ア・カペラ音楽」。原点にもどれば
礼拝堂の中で響く音楽ということになります。コロナ制限が緩和され、ヨーロッパの石
造りの教会の中で、再びその響きを楽しむことできる日が一日も早く戻ってくるとい
いですね。

音楽とは関係ないのですが・・・

ちょっと 心温まるお話

このフクロウちゃんのニュースをテレビやラ
ジオで耳にされた方も多いのではないでしょ
うか。つい先日、ニューヨークのロックフェラーセ
ンター前広場に運ばれてきた20mもあろうか
というクリスマス用のもみの木。その枝の中
に、このフクロウちゃんがくっついていたそう

です。作業していた人が、早速マフラーにくるんで保護したとのこと。もみの木にくっ
ついて、飲まず食わずの3日間の長旅を無事乗り越えたフクロウちゃんは「ロックフェ
ラー君」と名付けられましたが、すぐに自然の中へと返されることになりました。

コロナ・ウィルスのために世界中のたくさんの国々で混乱と不安が続く中、久々に
ホッと心温まるニュースでした。ドイツのミニ・ロックダウンは12月も続きそうですが、
クリスマスやお正月には、この状況が少しは好転していることを祈るとともに、人々の
心の中にもこのお話のような温かさが広がる2021年であって欲しいと、切に願う今
日この頃です。

